

コール・ロータスの歌

中山知子 詩

1. 櫓の音かるく 漕ぎのぼる
川辺の夜明け 咲く花の
深紅の夢を むさぼれば
ゆくてに冴える 空の青
古代の楽師 さながらに
うたえ われら コール・ロータス
2. ただひたむきに 灯を
かかげて集う この自由
大地の歌と 潮騒と
狩人の歌 愛の歌
愛こそいのち たからかに
うたえ われら コール・ロータス
3. すべての星座 かがやきが
ひとたびゆらぐ その夜も
嵐の底の ざわめきを
つらぬき響く ハーモニー
世紀を肩に 振りかけて
うたえ われら コール・ロータス

岡山大学男声合唱団 コール・ロータスOB会

創立50周年記念演奏会

創立50周年記念演奏会

2010年7月3日(土) 岡山シンフォニーホール

主催 岡山大学男声合唱団コール・ロータスOB会
後援 岡山県合唱連盟、山陽新聞社、RSK山陽放送
朝日新聞岡山総局、TSCテレビせとうち

司 歌

Die Nacht am Rhein

(C&H © 1988 森江社出版S.A.N.®)

Es braust ein Ruf wie Donnerhall,
wie Schwertgeklirr und Hohenprall:
Zum Rhein, zum deutschen Rhein!
Woher injill des Stromes Hüter sein?
Lieb Vaterland, magst ruhig sein:
Fest steht und treu die Nacht am Rhein!

岡山大学男声合唱団コール・ロータス 創立50周年記念OB演奏会によせて

第一回演奏会のプログラムを見ると、1961年4月17日結成、4月21日練習開始とあります。そして、第一回の演奏会が翌1962年1月24日に天満屋葦川会館で開催されました。

結成のいきさつ、50年の長いみちのりは50年記念誌をご覧ください。これまで支えて下さった多くの方々、初代顧問田中早苗先生、続いて折田薫三先生、田中紀草先生、また音楽の指導を心から授けて下さった糸賀英恵、近藤安介の各先生に深甚の謝意を表します。

特に新しい曲の委嘱をこころよく受けて下さった信長貴富氏には心からお礼を申し上げます。歴史に残る初演となりますよう ORは500人を超えましょうか、そのうち100名を超えるメンバーがステージに立ちます。岡山で、またこのシンフォニーホールでは単独で100人を超える人数の男声合唱ははじめてのことです。方ではなく、きれいな、深いピアノミッシェルを皆様に乗せただけですよう祈ります。

これから先、より美しい心の音楽をうたえる合唱団になることを目指して歩み続けるよう、若い、特に40期以降の若いOBに期待します。

コールロータスと共に歩み、亡くなったOB一人一人に思いを馳せながら、心を込めて歌います。

岡山大学男声合唱団コール・ロータス
OB会長 大島 昭夫

I. 男声合唱組曲 「富士山」

- I. 作品第壹 作詩：草野 心平
- II. 作品第肆 作曲：多田 武彦
- III. 作品第拾陸 指揮：西山 隆幸
- IV. 作品第拾捌
- V. 作品第貳拾壹

II. Four Frogs & T. Hiramatsu Trio on Stage

III. 男声合唱とピアノのための「5つのモノローグ」 創立50周年記念委嘱作品 (OB・現役合同ステージ)

1. 男の地図 作詩：谷川俊太郎
2. 女に 作曲：信長 貴富
3. 男の唄 指揮：上月 明
4. 父の唄 ピアノ：大池真理子
5. 頼み 独唱：河原 一夫

IV. 男声合唱組曲 「朔太郎の四つの詩」

- I 五月の貴公子 作詩：萩原朔太郎
- II 孤独 作曲：清水 脩
- III 陽春 指揮：武内 成禮
- IV 緑色の笛

男声合唱組曲「富士山」

「富士山」は、昭和時代の詩人 草野心平が記した、富士山を題材とした数々の詩の中から、作曲家 多田武彦が曲をつけたものである。

草野氏は〈天〉(雄)を好み、読点(、)の代わりには句点(。)を用いての間の表現、巧みなオノマトペ(擬声語)を特徴のひとつとする。富士山についても、物體のみを歌うのではなく、ひとつの象徴として、民族精神の無量の糧として歌い、「富士山などというものは天を背景にしなければ存在しない」と述べている。壮大な宇宙的感受、時空間の拡がりを感じられるだろう。

I. 作品第壹

古代の富士の麓、富士の祭典が幻想的に顕れる。億万の蝶に七色の霞、鳥と楽器の歌声。
動物と植物、身分の差異、果ては海をも超えて、全てのものが春の富士を謳歌する。

II. 作品第肆

春の光が溢れ、そよ風に光は舞い、葉は揺れる。私は揺れる。私は塞いでいる……。
その間で、富士は近づぐでもなく遠ざかるでもなく、変わらぬそこに座っている。

III. 作品第拾陸

山脈に日が沈み、天が金色に輝く。
日を背にする一瞬、富士は物理的な存在を超え、無限なものとなる。

IV. 作品第拾捌

紅く燃える雲の広がる天、その下に構える存在。
天と地を繋ぎ、天の楽音がどこからか(おそらく地からか) 沸きあがる。

V. 作品第貳拾壹

重く暗い雨雲を超え、夕映えに紅く染まる富士が見える。
その上に、薄青い透明なガラスのような、見えないエネルギーが宇宙から降りそそぐ。



指揮者 西山 隆幸

岡山大学工学部、同大学院卒。在学中、ロータスの第10期学生指揮者を務める。倉敷男声合唱団の創始者である田中常氏により高校時代に合唱の世界へ誘われ、また指揮を岡氏に師事。卒業後、岡山県合唱連盟事務局員に生かす方法を模索中。現在、倉敷男声合唱団指揮者、岡山県合唱連盟事務局員

多田氏は「声域を気にし過ぎずに力強くスケールの大きい曲」と自らか述べているが、「繊細さと力強さ」の両極の必要性も同時に述べている。次々と変化する獨特の和音、前衛的な旋法を用い、詩のもつ色彩、優雅を表現している。そして、圧倒的な雄大さ。

スタミナと技術を要する大曲ではあるが、その曲を歌い切ることを前提とした上で、色彩に溢れた詩の世界を展開し、どこまでも広がる力強く繊細な調べを響かせたい。

Four Frogs & T. Hiramatsu Trio on Stage

アフリカン アメリカン スピリチュアルズ (黒人霊歌)

21世紀にもなっても共産党でもあるめえし、ニクロスピリチュアルでもねーだろーダジ」とニューヨークの友達に言われ、グーグルしたらやはりありました。アフリカン スピリチュアルズ となりました。日本語では長く黒人霊歌と訳されてきていて、CDのジャケットにも演奏会のプログラムにもそう書かれています。霊歌といえは、これはこの世のことならず 我々の何処の物語。魂の御詠歌を想像しますが、アフリカン霊歌はリズムカルで踊りだすコスヘルとなりませう。

Behold the Bridegroom Cometh (花婿の来るのを見よ 花婿に備えよ)

マタイ伝のエピソードを引いたものです
賢い人の処女と愚かな人の処女がどうなったのか? との教えなのですが、舞台の油を余分に持っていないか? だ処女達が愚かであると言っている内容は小暖に富んでいます。

Wade in the Water (水を分けて)

この曲は興味深いことなのですが、実は暗号ワグナなものです。
原歌詞が定かではないし、誰りがあるのでは正確な事は言えません。どうやら奴隷の身の人かどうすればは奴隷制のないカナダへ逃げられようか? その道標は? どうすればは船の手をまけるのか? 追いかける人はどうすればはよいのか? を伝達するのがこの歌の歌の目的だったようです。だから水に入るとは道の道標から逃れるのです。
アラオの手から民を救ったモーゼのように、船を割って進むのです。ヨルダン約束の地は、どうやらカナダだったようです。

When the Saints Go Marching in (聖者の行進)

あまりにも有名なサイキシーララララジャズのナンバーです。
ジャズミュージシャンにとってこの曲は「サ・モン・スター」と呼ばれて

と、よく知られた曲です。



平松 隆司 (ピアノ)

岡山生まれ
高校時代に始めたドラムでジャズに出会
う。小野満、中西義宣に師事。中西義宣とビバークラウンスオーケストラ。他多数のバンドで活動する。
現在は後進の指導にあたるかたわら「自己のトリオや二人本體とホットジャズ」で

デイクシー、スウィングジャズ、他にビバークラウンス等幅広く活躍中。尊敬するドラマーはマックス・ローチ、エルビン・ジョーンズ。趣味は落語

近藤 博紀 (ベース)



大阪市生まれ。中国短期大学音楽科でコントラバスを学んだ後、ホテルのラウンジやライブハウスのジャズの演奏活動をはじめめる。
現在、ホテルクラウンヴィン岡山でのレギュラーの他、イベント、コンサートなどで活躍している。また、市民オーケストラ「同

文交響楽団」にも構を置き、クラシックの演奏活動も行っている。

いました。この曲があまりにもホレユウラーな為、違う職業が入れ替わる様に100以上も演奏しなければならぬという日に備え、神光客であったから有名なニューオーリンズのハルボーストリート、神光客であったから有名なワシントン・ホールでも張り紙がしてあり、「サ・セイ・ソフ」のアンコールは通常のワグナでも5倍の張り紙がしてあります。とありました。
南北戦争後市場にあふれた軍楽隊の楽器で兼造サ・セイ・ソフを、理髪後は天が増え、墓地向かう道標はスローマナーなサ・セイ・ソフを、理髪後は天向かう道標を走るワグナなワグナで景気づけをしたのでした。その代表ナンバーが「聖者の行進」です。
「我々は後に就きませう」とはもうどう意味なのです。

Peace in the Valley (平和を谷に)

1937年にトーマス・ドーシーがマヘリア ジャクソンの為に作曲したゴスペルソングです。
彼は生涯に1000曲ものゴスペルソングを世に出しましたが、この曲程有名なものは他に類を見ません。1951年にヒットチャート「カウントリー」ウエスタン7位となりミリオンセラーとなりました。エルビス・プレスリーもジョニー・キャッシュも歌っています。

Joshua Fit the Battle of Jericho (ジェリコの戦い)

旧約聖書中の最重要人物である「士師」のモーゼの後継者であるJoshuaが、カナンの王を打ち破った戦いを歌ったものですが、実はこの有名な歌です。19世紀半ば南北戦争前の奴隷制が暫期間で廃止を試みる合戦に使われたり、また、全く単純に自由な身になる希望、願いを込めて歌われたもの、と伝えられています。

ジェリコは世界で最も古い都市のひとつであり、ヨルダン川の畔、交通の要所のアラスであったので、その所感をめぐり数多くの戦乱に見舞われた歴史を持ちます。現代のジェリコは丘に囲まれた近代都市ですが、これは取りも直さず破壊から何度も蘇った「不死鳥的」都市の成長をあらわしているのです。



藤井 雅紀 (ピアノ)

鳥取県出身、岡山市在住
岡山大学在学中より、ピアノを弾き始めた後、フリのピアノとなり、様々なアーティストと共演、研鑽を積む。
現在、市内ライブハウスに於いてライブ活動を続ける傍ら、各地でコンサート、イベントにおいても活躍中。

橋口 宏 (同会)

ロータス歴史人類学事典によると、ネオ古典派とカテゴライズされる。二期は第10期定期演奏会から第10期定期演奏会までを勤め上げる。在学中からステーション委員会として活躍。中でも「止しかるべき正義も、時として言う事がある」のフレーズで新曲「Song of the West」西部の歌の司会は今でも「傑作」と語り草となっている。岡大生として初めて、地元局テレビ番組のキャスター。オーディションに推薦されたとのレジェンド(伝説)まである。派手派老人。トッ

男声合唱とピアノのための「5つのモノローグ」

このたびは岡山大学男声合唱団コーネル・ロータースOB会の演奏会のご開催、誠にありがとうございます。コーネル・ロータース創立50周年という記念の年に新作を書かせていただいたことを、ととても嬉しくまた光栄に感じております。

今回は現役大学生との合同演奏とのこと、詩の選択にあることは、幅広い世代によって歌われるに相応しい内容であることをまず考えました。しかも男声合唱であることの必然、男の声によってしか表現できない内容を求めた結果、谷田俊太郎の比較的初期の詩集「あなたに」と「わくわく青年」に所収されている5つの詩に行き着きました。

それぞれの詩が歌う内容は、男の欲望であったり、孤独であったり、父親としての言葉であったり、さまざまです。1本の木が地下深くまで根を張り巡らしているように、社会の中、あるいは家庭の中で顔を隠す「男というもの」の地下には、女に想いは家庭の中で顔を隠す根を私たちに見せてくれているように思いますが、その潜在する根を私たちに見せてくれているように思いますが、5つの詩から1個の男の姿を浮かび上がらせてみたいと思います。構想を練りました。

音楽的な指針としては、まず日本語における「語り」と「歌い」の両方を音楽の中で具現化すること。そのために必要な音楽言語を、古典から現代までのスタイルから躊躇なく選び取ること

1. 男の地図

俺の中に山がある。俺の中に古まけた小屋があり、その中に動も用意してある。俺の中に婦がいて、そのかたわらに忠実な犬もいる。俺の中に沢山の卵が閉じこめられていて、その卵はたまたま真夜中に俺を起す。

俺の中に小さな男の子がいる。まだ生まれない男の子だ。そいつは黙っている。黙つて丸くなっている。

俺の中に時の液が満ちている。白くいいいんにおいでカオスのようにとどろとどろしている。

時の芽はなかなか結晶しない。

俺の中に種子がある。すべての種子がある。

俺の中に日々くり返される無数の収穫。無数の夕陽

俺の中の夢の柱

結果として多様な形式を持つ曲集とすること。以上の指針から音を形にしていきたい。

精神的な面から作曲行為を語るとすれば、私と父の関係が影響していると言えらるでしょう。私が子どもの頃の父は仕事ばかりで交流らしいことはほとんどなく、例えば、父の眼、で歌われていたような言葉を息子に掛けるようなことはありませんでした。現役を思いながらの方が、父の人間くさい面を発見する機会が多くなったように思います。幼少頃は理解できなかった。父とどう存在が、最近ようやく分かるようになってきた、そんなふうな感じにありました。幸い、命を取り留めました。私の中で父の存在がこれまでに大きく大きなものになった時期と、作曲時期が重なりました。父の中に潜む「眼」、そして私の中に共通する「根」があることを見出し、そのことが今回の作曲欲求へとつながったと言えます。

音楽的に困難の多い曲集ですが、岡山大学男声合唱団コーネル・ロータースOB会の皆さんと大学生の皆さんが、詩の言葉に共鳴して下さることを期待しています。作曲機会をお与えいただいた上月明先生と合唱団の皆様、関係各位に心から感謝申し上げます。

信長 貴富

2. 女に

陽にやけたおまえの裸の背に

俺は夢見る

疑われないおまえの大きなうるんだ眼に

俺は夢見る

おまえの目ささむ小さな明に

おまえの寝顔に

俺は夢見る

古い村を

大きな昔ながらの家と庭とを

その庭に根をおろす年老いた榎の木を

その上の変わらない青空を

俺は夢見る

俺の元氣一杯な息子を

おまえの幼すぎる孫たちを

俺たちの死を

俺は夢見る

明日のささやかな晩餐を

ひとびとの涙山の生を

むなしく夢見る

信長 貴富 (のぶなが たかとみ)

1994年上智大学文学部教育学科卒業。1994・95・99年朝日作曲賞(合唱曲)。1998年卒業生日本歌曲コンクール作曲部門第1位。2000年現存作曲新人賞入選(室内楽曲)。2001年日本音楽コンクール作曲部門(室内楽曲)第2位。主な作品に「Fragments」(歌曲)、「モニユス」(女声合唱)、「起点」(男声合唱)、「ヒーロー」(室内楽曲)、「心の中のうたげ」(童声・児童合唱)、「エレキテル」(室内楽曲)などがある。



3. 男の眼

男は煙草に火をのける

へんにかわい、横顔だ

男の心の底の底

それは誰にも分からない

男のなかに穴がある

青く果てない、あなあがある

男はクククもすんでる

へんにずるそうな横顔だ

男の心の底の底

それは女に分からない

男のなかに穴がある

深くうつろな、あなあがある

男はひとりで海見てる

へんにさびしい横顔だ

男の心の底の底

それは男も分からない

男のなかに穴がある

消すに消せない、あなあがある

4. 父の眼

速く行け息子よ

おれをこえて速く行け

愛せるだけの女を愛せ

だが命かけて愛するものは

ただひとりだけ

おれがきみのおふくろを愛したように

速く行け息子よ

地平をこえて速く行け

指けるだけの荒野を指け

だが命かけて求めるものは

ただひとりだけ

おれがいつかいつかめずに終った何か

速く行け息子よ

時をこえて速く行け

笑えるときは大きく笑え

だが涙流しこらえるのは

ただ自分だけ

おれがいつかいつかめずに終ったように

5. 頼み

裏返せ 俺を

俺の中の目を耕せ

俺の中の井戸を干せ

俺の中身を洗ってみな

素敵な真珠が見つかるだろう

裏返せ 俺を

俺の中身は海なのか

夜なのか

速い道なのか

ホリエチレンの袋なのか

裏返せ 俺を

俺の中に何が育っている

熱れすぎたサボテン畑か

一角獣の月足らずの赤坊か

ウェアオリンになりそこなった橋の木か

裏返せ 俺を

俺の中身を風にさらせ

俺の夢に風をひかせろ

裏返せ 俺を

俺の観念を風化させろ

裏返せ

裏返してくれ 俺を

俺の皮膚を戻してくれ

俺の顔は凍傷にかかっている

俺の眼は羞恥で真赤

俺の唇は接吻に飽きた

裏返せ

裏返してくれ俺を

俺の中身を太陽に干まらせてやってくれ

俺の胃や膀胱を草の上にはひらけて

赤い暗闇を蒸発させろ

俺の肺臓に言葉を詰めろ

俺の輸精管はもつれたままで

思いついた馬たちに踏みにじらせろ

俺の心臓と脳髄は日本の著で

俺の恋人に食わせてやってくれ

裏返せ

裏返してくれ 俺を

俺の言葉たちを

喋らせちゃってくれ 早く

俺の中の弦楽四重奏を

鳴らしちゃってくれ

俺の中の年をとった鳥たちを

飛ばしちゃってくれ

俺の中の愛を

ずっちゃってくれ 悪い賭場で

裏返せ裏返してくれ俺を

俺の中のおその真珠はくれでやるから

裏返してくれ裏返してくれ俺を

俺の中の沈黙だけはそっとしといて

行かせてくれ俺を

俺の外へ

あの樹蔭へ

あの女の上へ

あの砂の中へ

指揮者 上月 明



岡山大学教育学部音楽専修課程卒業

昭和48年、岡山大学教育学部政科(音楽専攻)を修了。作曲を愛田啓三氏に師事、指揮を真藤安平氏に師事。女声合唱指揮

「母と子の語り」、室生犀星叙情小曲集、男声合唱組曲「智恵子抄」、岡こはあそび歌、ソフワラと男声合唱のための曲集

「月曜日の詩集」、男声合唱組曲「管弦楽の詩より」、ロータースの詩による合唱の世界「返信」等の作品がある。期会中・四国

支部オベラ「晩鐘」等の公演や、岡山シンフォニーホール開館記念交響作品「オベラ」ワカヒメの初演で合唱指揮を務めた。

現在、岡山県合唱連盟理事長、岡山市民合唱団指揮者、岡山大学男声合唱団コーネル・ロータース常任指揮者



ピアノリスト 大池真理子

中国短期大学音楽科卒業 同専攻科卒業

ピアノを京田佳子・飯田和彦の両氏に師事

同短期大学期間を通じて、中塚ワカユエ・コー

ルのピアノリストとして近藤安平氏のもとで

合唱伴奏法を学ぶ。

以来、岡山大学男声合唱団コーネル・ロー

タス、岡山市民合唱団指揮、女声合唱団サト・マム、岡田・井

の「第九を歌う会」、コーネル・尾道、尾道シンフォニーオーケストラ、男声合唱団コーネル・フロイデ等、数多くの合唱団の伴奏を務める

2008年3月学生同愛の会主催第2回「女性文化賞」受賞

現在、岡山県立高等学校非常勤講師、サト・マム、ワカユエ

コーネル、シヤルマントウ、岡ピアノリスト ありの会会員

男声合唱組曲「朔太郎の四つの詩」

I 五月の貴公子

若草の上をあるいてゐるとき
わたしの靴は白い足あとをのこしてゆく
ほそいすてっきの銀が草でみがかかれ
まるめてぬいだ手ぶくろが宙でおどって居る
ああすっぽりといっさいの憂愁をなげだして
わたしは柔和の羊あひなの羊になりたいたい
しっとりとした貴女のくびりに手をかけて
あたらしいあやめおしろいのにほびをかいで居たい
若草の上をあるいてゐるとき
わたしは五月の貴公子である。

II 孤独

田舎の白っぽい道ばたで
つかれた馬のこころが
ひからびた日向の草をみつめてゐる
ななめに しののしとはそくもえも
ふるへるさびびしい草をみつめる。
田舎のさびしい日向に立って
おまえはなにを視てゐるのか
ふるへる わたしの孤独のたまひじよ。

このほこりっぽい風景の顔に
うすく涙がながれてゐる。

指揮者 武内 成禮

1940年6月生まれ、小学4年生の時大分県田田市から岡山深紙小学校へ転校、兄の勤務の都合上、間もなく広島県因島土生小学校に転校。

中学校2年生までで過ごして、3年生から岡山市立旭中学校へ転校。岡山操山高校、岡山大学医学部卒業（1966年）、外科医・大洲中央病院（226床）を開院・病院長、現在も現職医師として診療し市民からの信頼は厚い。

音楽は操山高校金谷方子先生に師事、音楽の才能に期待されたが、家庭の事情により医学部へ進学。入学当初から岡山大学混声合唱団「クリー・クラブ」を指揮。2年目に関西学生合唱コンクールで混声の部最優秀賞を受賞。合唱に熱を入れ過ぎたか、諸学1単位が不足し、進級に苦境となる。頼みの担任（後にロータスター顧問教授）へ進級の支援（ビュッセン）を頼ったところ、1学期もや長いほうがよるしい、留年すると友人も2倍に増えるし、合唱もやれる。と逆に留年を勧奨される。その年、先輩同僚を誘い、「岡山大学医学部男声合唱団コンクール・ロータスター」を結成。その年に操山会館で第1回定期演奏会を開催。翌年、中国地区代表として朝



日合唱コンクール全国大会へ出場。ロバート・シヨウウヤやロジェー・ワグナーの音を目標にロータスターを指導。楽譜を求めて大阪・東京を東奔西走。コピー機のない時代に楽譜のガリ版刷りの作成と練習に専念。黒人霊歌、ロシア民謡、ミサ曲、邦人組曲を独自の解釈で演奏。団員には美声な声楽家もいたが、大半の学生は、合唱の経験は全く無く、正しい音はとれぬ、音符は読めぬ、リズムは狂う素人集団。これをまとめあげる稀有な人間力に敬意を表してニックネームは「酋長」。1963年、医学部から全学部制の「岡山大学男声合唱団コンクール・ロータスター」に発展させ、初代指揮者として5年間の指揮を執る。以後、海に漂流に遊び、その釣りの腕前は名人級である。絵筆も揮い、大車輪

25年前から大洲市の文化活動として、国内外から有名演奏家を招き「大洲音楽祭」を主宰。今年第24回で、10月20日、ウイーンからムノツツイル・ブラスアンサンブルを招き、演奏会を開催する。音楽祭は市民の人気は高く、毎年満席の盛況。地元企業や全国の製薬会社から寄付を募り、僅か1000円の入場料で聴けるこのコンサートは「良い演奏は、良い聴衆が存ってこそ実現できる。をモットー」としており、出演者からは聴衆の質の良さを高く評価され、再来演希望者も多いと聞く。

III 陽春

ああ 春は遠くからぶかって来る
ぽっくりふくらんだ柳の芽のしたに
やさしいくちびるをさしよせ
おとめのくちづけを吸ひこみたさに
春は遠くからごむ輪むすこのくるまに乗って来る
ぼんやりした景色のなかで
白いくるまやさんの足はいそげども
ゆくゆく車輪かじはろがさかささまはり
しだいに梶かじ棒がじめんをはなれ出し
おまけにお客さまの腰がへんにふらふらとして
これではとてあふなさうなど
とんでもない時に春がまっしろの欠伸をする。

IV 緑色の笛

この黄昏の野原のなかを
耳のながい象たちがぞろりぞろりと歩いてゐる。
黄色い夕月が風にゆらいで
あちこちに帽子のやうな草っぱがひらひらする。
さびしいですか お嬢さん！
ここに小さな笛うたごがあつて その音色は澄んだ緑です。
やさしく歌口をお吹きなさい
とうめいなる空にふるへて
あなたの蜃気楼をよびよせなさい
思慕のはるかな海の方から
ひとつの幻像がしだいにちかづいてくるやうだ。
それはくびのない猫のやうで
草場の草影にふらふらする
いっそこんな悲しい暮景の中で
私は死んでしまいたいのです。お嬢さん！



練習ピアニスト 小野 典子

岡山大学教育学部中学校教員養成課程音楽専攻卒業。

故 秋吉縫子、故 赤岡宏治、中山淳弘、金谷方子、安藤仁一郎、柳井修、高崎三千の各氏に師事。現在、倉敷男声合唱団ピアニスト。

大学在学時より岡山大学混声合唱団グリークラブのピアニストとして活動を始め、以後岡山第九を歌う会の練習ピアニスト、岡山市民合唱団「鸚鵡」、岡山大学男声合唱団「コール・ロータスター」など多くの合唱団および声楽家と、ピアニストとして共演するとともに、リサイタル・ピアノ・デュオ・リサイタルを開催

また、岡山フィルハーモニー管弦楽団の演奏会にピアノリスト・チェレスタ奏者として参加

岡山シンフォニーホール開館15周年記念 コンサートオペラ「ワカビメ」ではコルベテイトウアとして活躍し、作曲家でもある音楽監督の木暮氏からの信頼も厚く、重要な役割を果たし、以後「カルメン」「カヴァレリア」「アラステイカーナ」「蝶々夫人」でコレテイトウアをとつとめるほか、ベートーヴェン作曲交響曲第九番など合唱付き管弦楽曲の練習ピアニストとしても活躍する

現在、倉敷混声合唱団コンサートマスター、倉敷男声合唱団ピアニスト

第50回 記念定期演奏会

2011年1月8日(土)
岡山シンフォニーホール

17:00開場 18:00開演



男声合唱組曲「雪国にて」

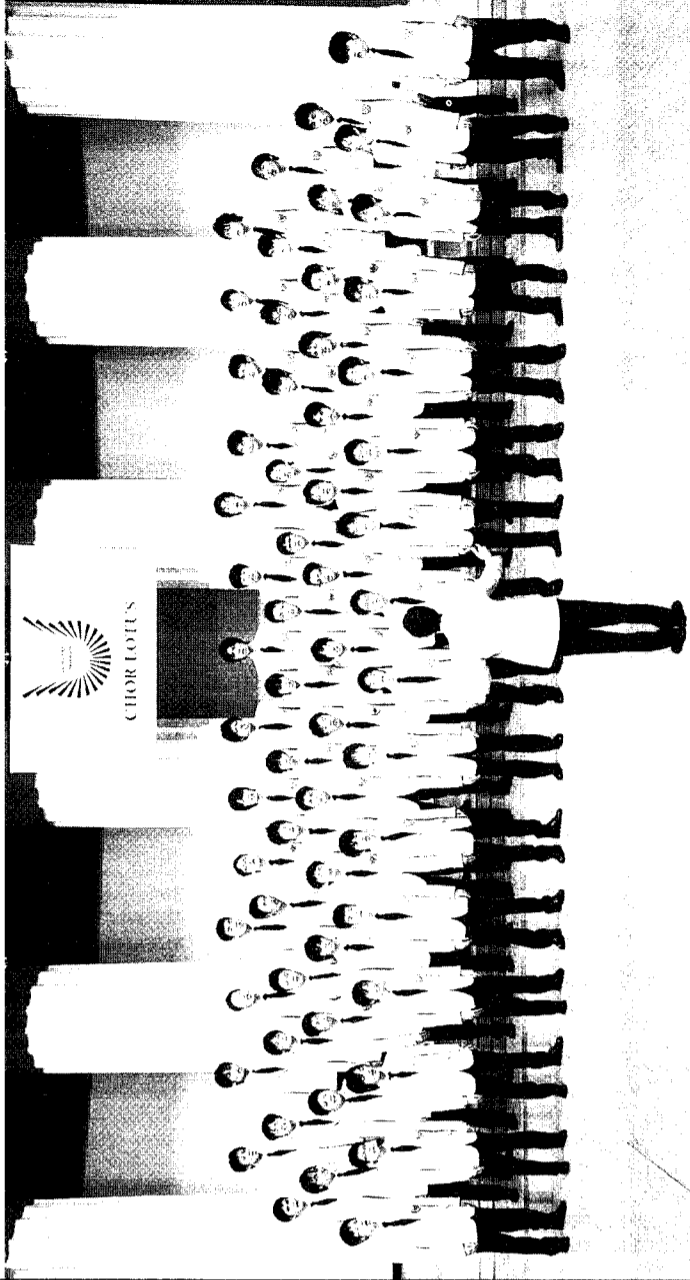
作詞：堀田 大智 作曲：多田 武彦
指揮：山本 哲也

男声合唱組曲「月光とヒエロ」(OB・現役合同ステージ)

作詞：堀田 大智 作曲：清水 一 裕
指揮：武内 成徳



ほか



ホームページ <http://chor-lotus.sakura.ne.jp/> 問い合わせ：村田 (090-5909-3951)

TOP TENOR

高杉 潔	1期	山崎 泰弘	3期
岡崎 富男	4期	藤岡 豊	11期
石戸 則孝	11期	福井 康人	19期
吉原 浩之	21期	大内 和彦	23期
田村 眞市	30期	西山 隆幸	40期
野口 一郎	40期	北岡 達也	50期
大西 祥太	50期	久保 拓也	51期
横山 豪人	51期		

SECOND TENOR

藤澤 義人	1期	瀧 正史	6期
三原 博之	7期	井邊 昭	9期
阿江 敏	13期	武藤 正樹	16期
妹尾 邦彦	18期	三宅 正晃	22期
榎永 健二	23期	江本 和司	29期
小竹 正高	32期	中西 俊之	31期
城谷 誠司	35期	坪根 幸二	37期
国定 辰巳	50期	大西 裕介	51期

BARITONE

大島 昭夫	1期	伊野部 晋利	5期
肥野 藤 樹	5期	東 良平	8期
井内 修	11期	伊藤 正紀	11期
塚原 裕一	19期	狩野 文男	22期
日永 善明	28期	関戸 裕二	29期
山本 晃一	30期	山本 明宏	31期
永田 憲司	35期	野瀬 博昭	45期
大坪 広章	48期	西山 達也	50期
村田 憲彦	50期	堀 佑哉	51期

BASS

林 英生	1期	阿左見 和夫	1期
前島 岐仁	1期	田辺 真一	3期
山田 卓夫	8期	阿部 正美	10期
三木 一弘	13期	富岡 敦男	16期
関子 義文	19期	今福 茂樹	21期
早瀬 和道	30期	山内 隆	30期
大場 康英	31期	高橋 昌之	31期
井上 智裕	37期	坪井 禪	37期
足立 亮太	50期	柳田 陽平	50期
長岡 諒樹	51期	延末 祥	51期

武内 成禮	1期	田中 茂人	1期
首藤 孝雄	8期	難波 晃	8期
木村 高博	12期	秋山 裕治	13期
高橋 弘幸	17期	家弓 哲彦	18期
三浦 秀樹	23期	平井 儀彦	28期
山下 茂樹	31期	石丸 貴史	32期
安本 清史	31期	安本 逸人	35期
小山 雅彦	40期	坂東 基平	49期
澤勢 貴通	50期	山本 光一	51期